

びふか 議会 です

こんにちは。

2015年11月号
北海道／美深町議会



明日へ向かって
新しい校旗が寄贈された仁宇布小中学校

チョウザメ振興加速	第3回定例会	2～3
26年度会計認定へ	決算審査 特別委員会	4～7
ここが聞きたい	一般質問に 3氏登壇	9～11
委員会レポート		12～13
私からのメッセージ		16

第95号

この議会広報は、地球にやさしい再生紙を使用しています。



定例会

今定例会は、財源確保が図られたことにより展開される事業や国の制度改正に伴う予算が盛り込まれたものが主で、チョウザメ加工施設補助金、新エネビジョン推進事業調査業務委託料、マイナンバー制度システム改修業務委託料など一般会計で6437万円を追加し予算総額は歳入歳出それぞれ47億9742万円となった。



チョウザメ振興加速

SAF恩根内に加工施設建設

仁宇布発電所放流水活用で飼育施設の検討も

平成27年第3回定例会は9月14日から17日まで開催され、町側から条例改正1件、規約の変更3件、補正予算4件、決算認定7件、同意2件、議会側から意見書1件、議員派遣1件、承認1件、配布資料5件が提出され審議が行われた。

補正予算

主な質疑

総務課長

チョウザメ飼育には

大量の水が必要である。

質問

仁宇布川水力発電放流水活用

チョウザメ飼育施設検討業務委託料があるが、既存の恩根内の施設と仁宇布に点在させる理由は。

また、恩根内の飼育施設に加工施設を整備する委託料が盛り込まれているが将来的に各施設の役割はどのようになるのか。

各施設の役割については、大規模な施設で大量に飼育する施設と加工段階における飼育

施設で、効率的な魚肉加工及びキャビアの生産につなげたい。

質問

チョウザメの加工施設整備で新しい雇用創出が図られるのか。

総務課長

あくまでも構想だが、飼育部門及び将来常時加工となれば雇用できると考えている。

質問

旧厚生小学校等改修工事があるがどのように活用するのか。

総務課長

西里地域の新規就農者用住宅に充てたい。家賃等は安価になるよう制度等を検討したい。



加工施設が整備されるSAF恩根内



主な補正の内容

補正前の額	補正額	補正後の額
47億3305万円	6437万円	47億9742万円

町単独事業工事請負費	1680万円
SAF恩根内整備事業補助金	1500万円
新工ネ推進事業調査業務委託料	1000万円
快適な住まい環境と商工業振興事業補助金	530万円
ぬくもり助成事業費	300万円
仁宇布川水力発電放流水活用 チョウザメ飼育施設検討業務委託料	280万円
町有住宅水洗化等改修工事請負費	170万円
社会保障・税番号制度システム 改修業務委託料	146万円



熱源供給事業が期待される恩根内市街地

質問 商工業振興事業が今年度で終了するが次年度以降の考え方は。

総務課長

商工業者の要望を踏まえながら内部で協議したい。

質問

新工ネビジネス推進事業調査業務委託料は恩根内の公共施設へ熱源供給事業の可能性を調査することのだが、将来の恩根内市街地のまちづくり策があるべきでは。

建設水道課長

ビジョンと

しては美深町全体に波及するものとしてあるが、まず恩根内地域の人口減少対策の一つとして住宅の整備もあり、チョウザメ飼育施設の熱源供給にも活用できることから、何とか地域に導入できないかと考えている。

財源としては国土交

通省の補助事業に対応できた。

わが町には木質バイオマスの基となる木材の確保、チップ化する施設が整備され取り組みやすい環境があることから、林業関係の補助事業の道すじにも繋がり、一般財源に頼らない国の財源確保の可能性もある。

質問

今年度もぬくもり助成措置がされているが、300世帯の算定基礎は。また、昨年度決算を見ると不用額が120万円程あり、住民周知が足りないのではないかと。

申請主義でなく手続きを簡素化して、対象者全てに支給できる仕組みを作るべきでないか。

マイナンバー制度が始まれば自動的に役場で対象世帯が掌握でき支給できるのでは。

保健福祉G主幹

今年度

の対象者としては、11月1日を基準日とし、非課税世帯が前提要件。
①高校生以下の子供がいる世帯が30世帯
②75歳以上の方のみの世帯が215世帯
③生活保護世帯水準の低所得世帯、身体障害者手帳の1〜3級者、療育手帳・精神保健手帳の受給者がいる55世帯の合計300世帯。
マイナンバー制度は今年度は活用できないが、次年度以降制度整備すれば手続きは軽減されると思う。

(質問者 藤原・南・小口・諸岡・岩崎・和田議員)

原案可決(全員賛成)

〔一般会計のなかみ〕
町民1人あたり
このように
使われました。

平成27年3月31日現在 人口4,678人

一般会計総額
58億2554万円
 町民1人あたり
 約**125万円**

総合計画
 第1章

自然環境と調和する
安全・安心なまち
「美深」

決算審査特別委員会

9月15日・16日の2日間、決算
 審査特別委員会が施策評価調査・
 決算説明書等により行われた。



中野勇治決算審査特別委員長

概要説明

質問

社会保障に財
 源化される地方
 消費税3%増税分の消
 費税交付金の振り分け
 および消費税10%の場
 合の配分は。

総務G主幹

国から
 配分され
 全体の事業費の中で案
 分している。
 増税後は財源充当分
 を国から示されること
 になる。



日曜運行が求められている仁宇布バス

移住定住事業

質問

ちよつと暮ら
 しPRの実績と
 タブレット活用への考えは。

企画G主幹

昨年は
 大阪で実
 施。
 来年度は動画の作成
 に着手する。

公共交通の充実

質問

生活バス路線仁
 宇布線運行事業
 の経費の改善とは経費
 削減か。
 また、日曜日に運行
 がないという不便の声
 がある。

総務課長

利用実態
 に見合う運
 行で経費削減可能かが
 課題。
 旧来の美幸線の代替
 輸送の運行形態で、基
 本的に生活路線である
 という目的を継続して
 いるため。

交通安全対策の推進

質問

大手地区の国
 道車線で、標識
 とラインがあつてなく、
 改善は考えていないか。

総合計画 第2章

資源をいかす
活力に満ちたまち
「美深」

観光協会の充実

質問

観光協会事務
 局が地域おこし
 協力隊員に対して業務
 の指示ができないのは
 なぜか。

総務課長

配置の際
 に活用して
 くださいとお願いして
 いる。

生活環境G主幹

検点
 は
 行っており、改善は図つ
 ていく。

防災体制の充実

質問

地域防災計画
 の見直しが遅れ
 ているのはなぜか。

総務G主幹

大震災
 後多くの
 法律が変わり、その改
 正に合わせ切れていな
 いため。

農畜産物販路拡大事業

質問

農畜産物販路
 拡大PR事業が
 当初の趣旨から内容が
 変わっている。

農業G主幹

企画部
 門は23年
 からイベント等で加工
 品等を中心にPR活動
 を行っている。

企業誘致活動

質問

農業関連の企
 業誘致は町を挙
 げて取り組むべきで、
 情報収集をどのように
 しているのか。

総務課長

戦略的に
 専門組織を
 作るのは現状厳しい状
 況。指摘の情報収集に
 関しては抜け落ちてい
 る部分がある。




改善が求められている大手地区の国道車線

土木費
4億5201万円




町民1人あたり
96,625円

衛生費
4億6481万円



町民1人あたり
99,361円

総務費
2億7785万円



町民1人あたり
59,395円

民生費
5億5724万円



町民1人あたり
119,119円

教育費
14億7777万円



町民1人あたり
315,898円

総合計画
第3章

次代をつくる人を
育てるまち「美深」

スキー場整備事業

質問 スキー場景観整備事業のビジョンは。

町長

将来、菊丘公園と一体化した希望を持っているが具体的には言い切れない。財源計画も定めなければならぬ。

スポーツの振興

質問 当町ゆかりの選手が他国の選手と交流する際に、美深町の宣伝ができるのでは。

教育G主幹

カナダからコーチが来た際に諸外国へのPRはお願いしている。選手が帰郷の際に情報をお知らせしたい。



更なるPRが必要となるスポーツ振興事業

学校図書の実践

質問 学校の図書購入費は評価調査に載せるべきだと考えるが。

教育G主幹

小中学校の学校図書購入実績は、主要施策としていない。

山村留学

質問 評価調査にある山村留学の美深の目標値確保に対する需要があるのか。

教育G主幹

視察や山村留学を止めた町から生徒が来た例がある。問い合わせはあるが、住宅に空がなく、受け入れができない。

質問

従来単身で来ていた方が親子や関係者としており、シェアハウスのような受け皿も考えては。

教育次長

山村留学の継続は全町の合意が必要。そういう中で親子住宅のみを先行するのは難しい。

美深高校対策

質問 美深高校のPRが足りない。子ども目線でPRも必要では。

教育次長

高校生が中学校で学校生活話す機会や卒業した社会人一年生が話す機会を作っている。20人を切ったことで、高校側も危機感を持っている。



就学希望のある山村留学



就学希望の減少している美深高等学校

文化財保護の推進

質問 解体されたレンガ倉庫は昭和初期の大冷害で、政府からの払い下げの米を貯蔵するための保管庫だった。

建物だけではなく、そこにどんな歴史があったのか、しっかり伝える必要があるのではないか。

教育次長

文化的観点とか構造体はどうなのか、残す際にはどうするかという考えが必要と思う。今後そのような視点で考えていきたい。



解体されたレンガ倉庫

労働費
896万円




町民1人あたり
1,915円

公債費
4億6760万円




町民1人あたり
99,957円

消防費
4億7705万円




町民1人あたり
101,977円

商工費
4億3626万円



町民1人あたり
93,258円

農林産業費
2億9924万円



町民1人あたり
63,968円

総合計画
第4章

健康で明るく
暮らせるまち「美深」

生きがいづくりと社会参加の促進

高年齢者の生きがいづくりはどの程度対応しているか。

多様化するニーズの

保健福祉課長

中で、老人ク

ラブの減少もあり難しい状況。

65歳以上でも、働ける方には老人クラブ加入を強制できないという実態がある。

シルバー人材センターは需要

があり、元気な高齢者が働ける仕組みを行政としても仕掛けるべき

では。

町長

100人を超える組織だが、登録会員が減る要素も

出しており、法の許す範囲で対応する。

高齢者まちなか住宅建設事業

高齢者向住宅

の建設事業の方

向性は。

保健福祉G主幹

住宅の要望があるが、家賃などを考慮すると

難しいと考えている。

体の不自由な方も入居できる

という考えか。



ほっと☆プラザスマイルでくつろぐ 老人クラブ



研修先の宮崎県水産試験場
チョウザメ養殖池

保健福祉G主幹

ピス以外の独居老人、一般の高齢者という認識。

地域包括センター運営事業

地域包括セン

ター運営事業に

おいて地域的な課題は。

地域包括支援

高年齢者人口

40%を迎えるなか、高齢者同士が支えあう体制整備が整っていない。

総合計画
第5章
みんなでつくる
心かようまち「美深」

人材育成研修

計画では200万円の増額

だが、地域人材育成事業では今後どのような改善が必要か。

企画G主幹

平成27年はまち

ひと・しごと研修事業で補正増額し、参加しやすい研修の充実を図っている。

平成30年度に向け地域包括ケア体制の整備が課題。

介護予防事業の推進

介護予防教室

の利用者数がか

なり減少している要因は。

地域包括支援

療法士

がないと開催できないこともあり、回数を減らしていることが原因。

姉妹都市交流事業の促進

アシユクラフ

ト村との国際交流について、交流の方法としてどのように取り組んでいくのか。

町長

交流のマンネリ化や派遣の人選についても改善策を

模索している。

交流や研修で良い感覚を身につけられたら

と思う。

一人でも多くの参加者があってほしい。



国際交流 交流を繋ぐ壁画

一般会計総額
58億2554万円
町民1人あたり
約125万円
平成27年3月31日現在 人口4,678人

〔一般会計のなかみ〕
町民1人あたり
このように
使われました。

議会費
5517万円
町民1人あたり
11,794円



職員給与費
7億6865万円
町民1人あたり
164,312円



災害復旧費
8288万円
町民1人あたり
17,717円



広聴活動事業

質問 新年度予算を住民に周知する際に、新たな事業の開始、拡大などが分かるような広報のあり方について考えは。

総務課長 施策評価委員会の結果の広報誌掲載について住民には分かりづらい部分もあり、広報での周知方法を検討したい。

地域創生活動の推進

質問 地域おこし協力隊は起業に結びつくものになっているか。

企画G主幹 起業を見据えた活動は難しい。町の中で仕事を見つけてもらうことも一つの形。チョウザメなど明確な任務に着いていただき定住定着してほしい。



地域活動で活躍される協力隊員

財産に関する調査

質問 美深町における土地建物の遊休地、施設についてのおささは。

総務G主幹 行政財産は各所管、遊休資産は総務課で管理し、現在資産を洗い出す作業をしている。

質問 ふるさと納税に関して、新たな仕掛けや今後の考え方は。

総務G主幹 返礼品はPRが足りないとの指摘もあり、内容を見直し検討したい。



新たな検討を望むふるさと納税制度

高齢化に対応した施設の充実

質問 高齢化に対応した施設の改修実績が0件だが。

企画G主幹 コミセンは全面改修、第一コミセン、新生は高齢化に対応と総合計画10年間で計画しているが、後期の総合計画で具体化したい。

総括質疑

質問 これから住民主体のまちづくりを推進するうえで、どういったところにフォーカスを当てるのか。

町長 人口減少の中で一人でも多くの住民がまちづくりに参画してもらえよう、職員も住民と一緒に考える努力をすることが必要と思っている。

質問 美深高校は危機的な状況であり、総合的な考え方を持つべき、喫緊の時期であるが所見を伺う。

教育長 昨年から校長と共に足を運び生徒募集をしている。まだまだ策はあり、予算とは別にしても早急に取り組んでいきたい。

学校と連携協議を図り、町内の幼小中高で一貫した教育を考えるべきと捉えている。

美深の特色ある教育スタイルを作り上げた。

質問 今回の決算委員会を見ても、職員の資質向上に不足が感じられる。切磋琢磨して誇りある仕事ができるよう、職員の教育に力を注ぐべきではないか。

町長 厳しいお話をいただいた。職員には自分の仕事に誇りを持って臨んでもらっている。職員の仕事に対する接し方を見ているが、自らの姿勢を直すことに尽きると思う。

美深の教育では3年前から定期的に町内各

〔質問者 小口、長岐、和田、荒川、藤原、岩崎、齊藤、南委員〕

林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を 求める意見書

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、復興大臣

提出者 小口英治議員
賛成者 藤原、岩崎、長岐、荒川議員

本道の林業・木材産業は、基幹産業として、雇用の確保地域経済の活性化に寄与。地球温暖化が深刻な環境問題となる中で、森林が果たす役割はこれまで以上に重要。

森林の公益的機能の維持推進や森林資源の環境利用の実現に、森林整備・治山事業、森林整備加速化・林業再生対策の活用で様々な取り組みを支援。これらをさらに加速化させ、地域の特性に応じた森林の整備・保全と林業・木材産

業の成長産業化を実現するための施策充実強化を図ることが必要。

- ①「地球温暖化対策のための税」に森林吸収源対策を位置づけ、安定的な財源の確保すること。
- ②林業・木材産業の振興と山村における雇用安定化に対し、森林整備・治山事業の財源を十分かつ安定的に確保すること。
- ③森林整備加速化・林業再生対策を恒久化し、これらの財源を確保すること。

条例改正

美深町個人情報保護
条例の一部改正

●改正の趣旨

番号利用法（マイナンバー制度含）の施行により個人情報（個人番号含）の取り扱いに必要な措置等を整備すること、個人情報カードの交付及び再交付の手数料規定を整備改正するもの。

質問

マイナンバー制度施行により個人情報情報の漏えいが心配されるが、我が町も高齢者が多い中で利用に関する住民説明・周知が不十分でないのか。

総務課長 域担当職員による説明は当然で、さらに要望があれば出前講座等に対応したい。

質問

罰則規定は条例でどう規定するのか。

総務G主幹

今回の条例改正は、町民の個人情報保護するという内容のもので、罰則については上位法が優先して厳しく制限されることになる。

〔質問者 諸岡、中野、長岐、藤原議員〕

原案可決（賛成多数）

第4回臨時会

7月14日

●工事請負契約の締結

- ・契約の目的 菊丘浄水場耐震化工事
- ・契約の方法 指名競争入札による契約
- ・契約金額 6102万円
- ・契約の相手方 (株)山崎組

原案可決（全員賛成）

●一般会計補正予算

活性化促進補助金の増額補正で、特産品などの研究開発事業並びに町おこし創出事業の事業申請に対処、また、商工業担い手支援制度が予定を上回る活用が

あり必要の予算を措置。

質問

活性化促進補助金の内容と相手先は。

企画G主幹

西里地区の農業者の申請で、南瓜の加工施設建設に加工品を作るスペースと、販売・交流スペースも併設したものと、アートビレッジ恩根内小学校の壁面にアーティストを呼んで、絵を描くイベントを行うというもの。

〔質問者 岩崎議員〕

原案可決（全員賛成）

監査委員に 水本 守氏 選任に同意



水本 守氏の選任について全会一致で同意した。任期は平成27年10月1日から平成31年9月30日まで。

教育委員会委員に 坂井 弘明氏 任命に同意



坂井弘明氏の任命について全会一致で同意した。任期は平成27年10月1日から平成31年9月30日まで。



長崎和彦 議員

①未来に残す美深町の景観づくりについて

問 「町民憩いの場」が目的でよいのか

答 「歴史認識」に基づいてすすめる

質問 「町民憩いの場」を目的として景観整備をすすめているが、「児童生徒をはじめ町民が郷土の歴史や伝統・文化等を身近に体感し、郷土愛を育むことができるよう、地域の貴重な歴史的遺産や文化財を活かした歴史景観のまちづくり」ではないか。

来年度以降は専門家の意見を聞きながら、本格的な植栽により整備を進めて行く。

質問 計画期間及び予算規模が大きい。人員及び組織など整備体制に問題はないか。専門的知識を持った地域おこし協力隊の採用を考えないか。

計画期間及び予算規模が大きい。人員及び組織など整備体制に問題はないか。専門的知識を持った地域おこし協力隊の採用を考えないか。

教育長 本来こちらから説明すべきことを指摘していただいた。歴史認識に基づき除虫菊を植栽し、

教育長 スキー場機能整備として必要な土木事業が行われたことによるが、維持管理、植栽方法には経費や知識が必要で、町外在住のアドバイザーの考えをもらいながら進める。

実務的なことは委託しなければならぬ。必要であれば専門職員採用を考える。



晴れ行く雲海とスキー場頂上からの眺望

問 周辺施設を含めた運営ビジョンは

答 現段階で一体化した考えは持っていない

質問 隣接する菊丘公園など、スキー場景観整備後の供用・管理・運営についてどのようなビジョンを持っているか。

隣接する菊丘公園など、スキー場景観整備後の供用・管理・運営についてどのようなビジョンを持っているか。

教育長 現段階で菊丘公園と一体化した考えは持っていないが、頂上からの眺望は良く、全体的に連携した中での管理が図られれば価値は増していくと考える。

現段階で菊丘公園と一体化した考えは持っていないが、頂上からの眺望は良く、全体的に連携した中での管理が図られれば価値は増していくと考える。

質問 グレンデ中央の勾配は、歩行には急斜面の直線であり、高齢者が登るには

無理がある。「憩う場」であるはずのバリアをどのようになくすのか。それぞれに力に応じて利用していただければと思う。グレンデ上部に植栽する除虫菊は遠くから見ることが出来るようにしたいと考えており、下部および平坦部分は多様な植栽により、近くから楽しめるようにしたい。



除虫菊の管理は雑草と石との戦い

- ① スポーツ環境の整備について
- ② PR活動及び町外者を呼び込むイベントについて



荒川 賢一 議員

問 スポーツ文化を通じた地域活性化は

答 支援・整備に努めたい

質問 フリースタイルスキー競技工
アリアルルの夏季練習施設、ウォータージャンプ台やエアーマットの整備が必要と思うが考えは。

教育長 ウォーター
ジャンプ台など施設整備・経費や運営管理など大きな課題がある。

当面、各種合宿への支援に努力したい。

質問 近年、冬期間における降雪時期が遅く、国内のフリースタイルをする選手は、

雪を求めて海外での練習を余儀なくされている。

我が町のスキー場に人工降雪機が備わって
いれば、スキー場の早期オープンが可能となり、合宿誘致にもつながる。降雪機の導入についての考えは。

教育長 降雪機の必要性として、

2018年韓国ピョンチャンオリンピック事前合宿などの誘致を考えると、全日本スキー連盟関係者や関係団体と協議し、環境整備に努めていきたい。



ケベックのウォータージャンプ台

問 交流人口増加につなげるPR・イベントは

答 地域活性化の視点では大事

質問 北海道で唯一の国際大会が開

催可能なFIS公認施設エアリアルサイトを美深町観光パンフレットやガイドブックに掲載し、冬の交流人口増加につなげるべきと考えるが。

教育長 スポーツ団体や愛好者の皆さん方で企画し、内容的にも継続性・方向性が良ければ全面的な支援体制が現実的。町外者の参加は、交流人口拡大、地域活性化の視点では大事であり協議したい。

教育長 パンフレットの用途においてPR活動、情報提供をして広くフリースタイル・エアリアルとPR効果になればと考えている。

質問 現在行われている各種事業や行事において、町外者が積極的に参加可能なイベント事業の考えは。



冬の交流 スポーツ競技



岩崎 泰好 議員

① 読書の秋、学校図書館のチカラを 子どもたちのチカラに — 学校図書館の現状と課題 —

問 蔵書の充実と
図書環境づくりは

答 満足される
図書整備に努める

質問 子どもたちの育ちを支える学校図書館の充実が求められてるが、蔵書の整備状況と読書活動の現状、学校図書館の利用状況と環境づくりは。

教育長 美深小学校・中学校の改築を機に身近に本があるという環境が叶えられ、日常の読書活動が増えた。
仁宇布小中学校は、建物整備が大きな課題



環境整備が課題 仁宇布小中学校

でその中でしっかりと考
えていく。

蔵書の整備状況は、
美深小学校が1万1000冊(標準6500冊)、美深中学校が4800冊(標準6700冊)、仁宇布小中学校4800冊(標準9

5000冊)で、今後は、学習活動に支障なく満足される図書整備に努める。

問 読書環境の整備に専任の司書を

答 厳しい環境にあるが
確保の有無を協議する

質問 学校図書館を支える学校司書の教諭の配置状況と今後の配置計画は。

教育長 配置基準の12学級以上にはないが、司書教諭の有資格者が協力し整理・管理、児童生徒の指導にあたっている。
学校規模や教育活動の状況から、単独配置は難しい。

質問 教諭に任せるのではなく、学校司書を専属で雇い入

れ、読書環境の整備を図っては。

教育長 国の方向性は理解するも現状を考えると厳しいが、協議を進める。

質問 この町の歴史な歴史を編纂した郷土研究会の研究紀要が見当たらないが。

教育長 非常に大切な指摘をいただいた。今後、整備を進めたい。



まちの歴史を学ぶ蔵書の整備を

レポート

総務住民常任委員会

所管事務調査

調査事項

老人福祉対策について

調査日

平成27年7月29日

調査の内容

わが町の高齢者保健福祉サービスの現状と課題について、担当課の提出資料に基づき、今後の高齢化率の上昇にどのように対応していくことが適切か調査するもの。

●介護保険施設の現状と課題

①認知症対応型共同生活介護
(グループホーム)

②小規模多機能型居宅介護
(緑の大地緑生苑)

③介護老人福祉施設
(特別養護老人ホーム)

④介護療養型医療施設
(美深厚生病院)

●町外施設の利用状況

①介護老人福祉施設は札幌市2名、江別市・旭川市・名寄市・中頓別町・西興部村各1名の合計7名

②介護老人保健施設は旭川市4名、名寄市1名の合計5名

③介護療養型医療施設は札幌市・滝川市の各1名の合計2名
(町外施設入所者は、美深町の※住所地特例で入所している)

※「住所地特例」とは、住所地以外の施設等に入る場合、住んでいた市町村が引き続き保険者として費用を負担する特例措置。

調査のまとめ

●今後も認知症高齢者は増加傾向の見込みから、本年10月開設予定のグループホームには対象者とその家族の支援策として期待されている。
ただ、新たな事業所

開設にあたり、町内全体の介護職員が不足していないか心配な面もある。
行政としても資格取得の支援など何らかの対策が必要である。

●美深厚生病院の全体のベッド数は64床あるが、現在7割程度の利用である。
今後、平成29年度末で廃止が決定している介護療養型医療施設の病床の転換を含め、施設の利用について協議が必要。

●町外施設の利用状況は、家族が居住する市町村の施設利用が大半を占めており、介護の利便性を考える傾向になっている。



11月から開設されるグループホーム「清の里 美深」

委員会

産業教育常任委員会

所管事務調査

調査事項

- (1)学校給食センターの運営状況について
- (2)美深スキー場景観整備事業について

調査日

平成27年7月17日

調査の内容

●学校給食センターの運営状況について

- ①食材の納入状況
(町内納入含む)
- ②職員体制の状況
- ③食育の取り組み

●美深スキー場景観整備事業について

- ①計画の進捗状況
- ②予算の執行状況
- ③今後の整備予定

調査のまとめ

●学校給食センターの運営状況について

①食材の調達は商工会JA等と協議の上、野菜・食肉は毎月の見積で納入し他の食品は見積の上、年契約で実施している。

農協女性部からは安心安全な美深産農作物提供の申し出、PTA及び各スポーツ少年団からは美深産食材の活用を求める要望書が出ている。

こうした状況にあつて、給食センターとしては規格外を含め積極的に美深産野菜の活用

を考えてきたが、食材の安全性や流通に関する理解の違いから実現に至らない状況にある。

当町においては、製麺・とうふ等の製造業者が廃業の状態が続いているため、これらは名寄市からの納入になっている。

町内での納入率(金額ベース)は、現在約35%になっている。

②職員体制は、センター長1名・栄養教諭1名・臨時職員1名・主任臨時調理員1名・臨時調理員7名・代替調理員2名となつており、現状では職員体制には支障がないが、今後職員の雇用体制の在り方も考慮すべき問題である。

③食育は、給食の目的にもある食育の重要性が求められており、より一層関係者が一体となった食育教育を行うとともに、食育の実態調

査も併せて検討すべきと考える。

●美深スキー場景観整備事業について

第5次総合計画では平成23年度〜平成32年度までの計画期間で事業費1億6300万円の計画になっている。

進捗状況は平成25年6月からの開始で試験栽培から始まったが、大雨のため平成26年度は排水整備に

は排水整備に力点がおかれ、本年度と合わせ、散策路・作業道路・散水設備・除虫菊整備等が実施された。

今後の計画は、平成28年度に花植栽整備5700㎡とエアリアルサイト整備で現リフト北側の整備は終了となり、およ

そ7000万円が投じられる。

美深スキー場景観整備事業計画においては実施要網の目的をさらに具体的に展開する視点が見られない。

長期的な整備計画を進める上で、「美深スキー場景観づくりを進める会」が休眠状態にあり、教育委員会とアドバイザーだけの計画では問題がある。



食育教育の重要性が求められる学校給食

議会活動 あらかると



次代に つながる交流

姉妹町訪問
【添田町】

7月31日～8月2日の日程で、姉妹町である福岡県添田町に山口町長を団長として総勢10人が添田町夏まつりに参加した。

議会からは倉兼議長、南副議長が同行し、添田町議会とも交流が深まった。

今回の訪問団には各業界から若手後継者や女性が参加し、にぎやかな訪問団となり、次代につながる交流となった。

夏祭りは圧巻の5千発が打ち上がる花火大会で全国でも有数の規模で、数千人の観客が壮大華麗な花火を堪能した。

日本の 経済を学ぶ

上川管内議員研修会
【当麻町】

上川管内町村議会議員研修会が10月27日当麻町で開催され、管内町村議員等219人が参加した。

研修では、「TPP交渉について」と題して、東京大学大学院農学国際専攻教授鈴木宣弘氏が、経済ジャーナリスト須田慎一郎氏が「日本経済の課題と展望」と題して講演をした。



紙面編集の ポイントは

議会広報研修会
【札幌市】

全道広報研修会が、8月19日札幌市で開催され、全道の町村議員等573人が参加した。

研修では、「議会広報紙の表現基本」をテーマに、グラフィックデザイナー長岡光弘氏が、紙面編集のポイント・視覚化の基礎知識を講義、さらに9町議会広報のクリニックを実施。

この研修会を参考に、魅力ある議会広報を目指し、工夫を重ねたい。

委員会は うまく機能 しているの？

議会運営委員会行政視察研修
【中札内村・陸別町議会】



議会運営委員会は、10月21日22日中札内村と陸別町の両議会にて「常任委員会の委

員の重複について」をテーマに行政視察研修を行った。

両議会ともに議員数は8名で、2常任委員会を置き委員が重複する構成で議会運営を行っている。具体的な運営状況や、美深町との違いについて研修をさせていただいた。

議会の動き・予定

8/18~19

議会広報研修会

9/4 議会運営委員会

9/7 全員協議会

9/8 平成27年度農作物生育状況調査



9/14~17

第3回定例会

9/14 本会議 一般質問

9/15 決算審査特別委員会

9/16 決算審査特別委員会

9/16 議会運営委員会

9/17 本会議 議案審議

10/8 災害状況視察



10/13 議会広報特別委員会

10/14 議会広報特別委員会

10/15 議会広報特別委員会

10/21~22

議会運営委員会行政視察



10/27 上川管内町村議会議員研修会

10/28 議会運営委員会

10/28 第5回臨時会

10/28 全員協議会

10/28 産業教育常任委員会

10/28 総務住民常任委員会

10/29 議会広報特別委員会

11/18 総務住民常任委員会所管調査

11/19 産業教育常任委員会所管調査



パンケ東2号道路災害復旧工事

【工期】H27.4.15~H27.10.30

【工事費】4307万円



平成27年10月8日

災害復旧工事を視察しました

平成26年8月豪雨災害箇所



パンケ5線道路水源橋災害復旧工事

【工期】H26.11.26~H27.2.27

【工事費】1221万円



10月に入り、連日の悪天候が、わずかばかり穏やかになったある日、夜空に北斗七星が、初冬の位置で輝いていた。今年ほど、月日が速く過ぎた1年は初めてである。国の政策も、一昨年の「特定秘密保護法」を皮切りに「地方創生」・「安全保障関連法案」さ



らに「マイナンバー制度」・「TPP」と息づく暇もなく、新幹線なみのスピードで課題を残しつつ、何処の宿駅を目指すのか。善し悪しの判断もおぼつかないまま、法案への関心が深まり、説明・理解が尽くされないうちに反対意見が広がり、大きなうねりとなったのは否めない。全国的に地方は、少子高齢化、人口減・人口流出、基幹産業の衰退、商工業の廃業など、地方経済縮小の中、果たして地域振興につながる策はあるのだろうか。嵐が渦巻く感覚を抱くのは、自分だけだろうか。



今年の7月に地域おこし協力隊として着任致しました。大学でデザインを専攻し布の染色（ス

の制作を行っておりま

トの手伝いの他、POPや看板のデザイン等

深町をアート・クラフトの分野から皆様と交流し盛り上げられるように、活動の幅を広げて動き回っていきます。

私からのメッセージ

地域おこし協力隊の隊員として、美深町で活動をされているメンバー4人の中から、お二人にメッセージをいただきました。



私は大阪府出身、地域おこし協力隊員として美深町にやって参りました。

では青肉メロンが主流でした。

回ずつ訪問し、大阪では北海道主催の就農セミナーへの参加、美深町では町役場の農業委員会の方々と面会し就農への相談の中で、地域おこし協力隊で農業研修を受けながら就農を目指す方向もあるということで応募し、町

の認定を受け現在活動しております。町役場の方々、研修受け入れ農家さんにもとても良くしていただいております、就農へ向け

就農を目指して

染川 明信

美深町を知ったきっかけは美深メロンに出会ったことで、それまでは赤肉メロンといえ

感銘を受けました。

多くの方々の期待に応えられるよう頑張っ

て行きます。

ば夕張メロンしか知らず、生まれ育った大阪

その後、秋と冬に1

深町をアート・クラフトの分野から皆様と交流し盛り上げられるように、活動の幅を広げて動き回っていきます。

着任してすぐに体調を崩して入院してしまい、たくさんの方に心配やご迷惑をかけてしまいましたので、恩を返せるように邁進してまいりますのでよろしくお願いたします。

自然とアート

久須田 麻子

地域おこし協力隊って？

2009年に総務省によって制度化された。

人口減少や高齢化等の進行が著しい地域において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある（都市）住民の二

ズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度。

わが町には、今まで8名の協力隊員が来られ、現在は4名の協力隊員が活動している。